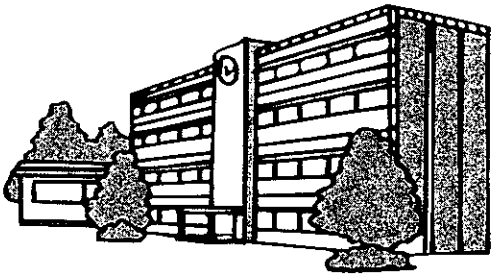
学校評価参考資料（追加）

＜学校力向上をめざして＞



平成２１年３月

福井県教育委員会

目　次

これまでの学校評価の国・県動向 … p１

学校評価の目的 … p３

これまでの学校評価の課題 … p３

これからの学校評価（学校力の向上） … p４

我が校の教育推進プラン（スクールプラン） … p５

学校評価システムの流れ（R-PDC(1・2)A サイクル） … p５

学校評価の進め方 … p６

自己評価 … p７

３つの指標 … p８

学校関係者評価 … p９

外部アンケート … p10

設置者に報告 … p11

評価結果等の公表（学校力アピールの場） … p11

おわりに … p11

学校評価参考事例等 … p13

これまでの学校評価の国・県動向

国　設置基準の制定（一部改正）（平成１４年３月）

小学校設置基準、中学校設置基準
高等学校設置基準の一部を改正する省令、幼稚園設置基準の一部を改正する省令
「学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検を行い、その結果を公表するように努めること」、「学校運営の状況について、保護者等に対して積極的に情報を提供するものとする。」と示した。
これにより、各学校が自己点検・自己評価を行い、その結果を公表することを努力義務とした。

⇩

県　学校評価検討委員会を設置（平成１７年３月）

本県の実情を踏まえた学校評価の在り方について検討を行った。

⇩

県　学校評価検討委員会の報告書「福井県における学校評価の導入について」を提出（平成１８年２月）

「学校評価は、各学校が具体的目標を設定し、その達成状況の把握を通じて成果と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善や活性化を図るための方策であり、自己評価と併せて外部評価（現：学校関係者評価）をすべての小・中・県立学校で実施することが望ましい。」と示した。

⇩

国　「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」の策定（平成１８年３月）

義務教育諸学校を対象にガイドラインを作成し、各学校や設置者の取組の参与に供した。
学校運営の自律的･継続的な改善･充実と地域住民･保護者の学校運営への参画を促進するとともに、学校の設置者等が学校に対する支援や条件整備等の改善を行うことにより、全国的に一定水準の教育の質を保証し、その向上を図る観点から、目安になると考えられる事項を記述した。

⇩

県　平成１８年度学校評価モデル校を指定（平成１８年４月）

地域と普通系学科・職業系学科を考慮し、小学校 14 校、中学校 7 校、県立学校 10 校を指定した。

国　越前町において文部科学省が委託する「義務教育の質の保証に質する学校評価システム構築事業」を実施（平成１８年４月～平成２０年３月）

実施体：　越前町教育委員会　越前町立小学校（８校）、越前町立中学校（５校）

⇩

県　リーフレット「実りある学校評価をめざして」・学校評価参考資料作成（平成１９年３月）

⇩

国　学校教育法の改正（平成１９年６月）

さらなる学校評価推進を図った。

⇩

国　学校教育法施行規則の改正（平成１９年１０月）

新たに「自己評価の実施・公表」が義務規定、「保護者等による評価（学校関係者評価）の実施・公表」が努力義務、「評価結果を教育委員会に報告」が義務規定となった。

⇩

国　学校評価ガイドラインの改訂（平成２０年１月）

新たに高等学校を対象に加えた。

・自己評価の在り方を再確認
・「保護者」の関わりを強調
・設置者の役割を強調

⇩

国・県　文部科学省委託事業「学校評価の充実・改善のための実践研究」（平成２０年度）

・推進地区：　あわら地区
・事業内容

あわら推進地区（小学校 10 校、中学校 2 校、高校 1 校）において、学校評価のガイドラインに基づく自己評価・学校関係者評価や情報提供に係る実践研究を踏まえ、地域の実情にあった特色ある学校評価を研究し、さらに、県全体の学校評価の一層の改善・普及を目指す。

学校評価の目的

学校が、保護者や地域住民等の期待と信頼に応えていくためには、まず、開かれた学校づくりを進めていく必要があります。そのため、学校が自己評価・学校関係者評価を行い、今、学校が何に取り組んでいるのか、何が課題になっているのかについて、評価結果を含めた様々な情報を公開することが大切であります。さらに、学校と保護者や地域住民の双方向の情報のやり取りを密にし、強い連携のもとで、改善策・向上策に活かされる学校評価システムが必要です。

信頼され開かれた学校の実現は、保護者や地域住民等を巻き込み、学校力の向上へとつながっていきます。

これまでの学校評価の課題

・教職員が学校評価を自分の問題としてとらえていますか。

・学校の取組や情報を保護者等の外部の方に分かりやすく説明・公表できていますか。

・具体的取組や判断基準等が抽象的でなく、達成できたかどうか評価しやすいですか。

※具体的取組や判断基準に数値化を取り入れていますか。

・反省や評価についての十分な検討や話合いの時間が取られていますか。また、次年度に十分に活かされていますか。

※学校評価がサイクル化されていますか。

これからの学校評価（学校力の向上）

・教職員が学校運営の当事者であるという自覚を持ちます。

各学校にて、研修機会を持ち学校評価システムの理念・目的・手法の周知を図り、教職員の意欲、手応え、信頼感、達成感に満ちた学校評価を実施します。

・学校の取組の姿が見える「我が校の教育推進プラン（スクールプラン）」を作成し、公表を目指します。

重点化された目標設定と、具体的なイメージが描け、達成できたかどうかが分かりやすくかつ判断しやすい取組をもとに作成します。
※抽象的な表現、客観性に欠ける表現、専門的用語の使用は避けます。

・連携を意識付ける「外部アンケート」を実施します。

児童生徒、保護者等による外部アンケートの実施により、教職員とは異なる立場からの見方や意見を取り入れることが必要です。具体的で分かりやすい取組や判断基準を設定し、共通理解を深め、学校運営の改善に協力してあたるための意識付けとなるような外部アンケートを実施します。

・「簡素で効果的な学校評価」を目指します。

「スクールプラン」、「学校評価書」・「学校関係者評価書」の結果報告等は、内容を精選し、簡潔かつ明瞭に記述し、用紙１枚程度を基本とします。学校評価の作業に労力をとられすぎ、評価のための評価におちいることのないよう、評価システムの改善も含め、継続可能な学校評価を目指します。

・学校力の向上を目指します。

評価に基づいた改善策・向上策は、児童・生徒、地域の実態にフィットしたものとなり、効率的な取組を生みます。さらに、学校が今ある課題と向き

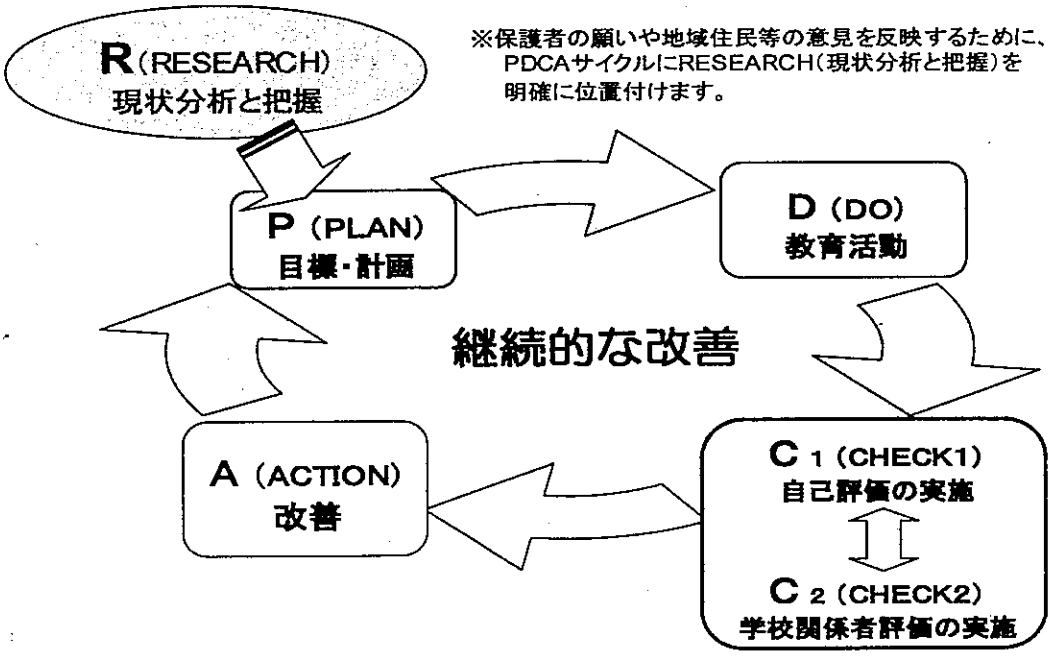
合い、それを乗り越えていく過程で、さらなる学校力の向上が図られます。

我が校の教育推進プラン（スクールプラン）

本県の「教育・文化ふくい創造会議」において、総合的な学力の向上に資するため、家庭・地域との連携の下での学校運営の改善に向けて、各学校において、授業をはじめとする教育活動の目標や内容、方法を具体的に、分かりやすく明示した「我が校の教育推進プラン（スクールプラン）」を作成・公表することが提言されました。小・中・県立学校が主体性と創造性を発揮し、地域や学校の特性を踏まえた「スクールプラン」をつくり、児童・生徒や保護者、地域への公表を実施します。

学校評価システムの流れ（R-PDC(1･2)A サイクル）

R－PDC(1･2)Aサイクル（図）



学校評価の進め方

一学期

校内評価委員会（仮称）
- RESEARCH の実施
- スクールプラン（精選された重点目標、具体的取組等）の作成
- 学校評価総合シートの作成

地域・学校協議会等の開催
- スクールプランの検討
- 学校評価総合シートの検討

校長
- スクールプラン、学校評価総合シートの保護者や地域住民への説明
- 意見や要望を把握
- 個々の教職員の目標設定

【スクールプランの公表】

二学期

校内評価委員会（仮称）
- 教職員アンケートの作成・実施
- 外部アンケート（児童・生徒、保護者用）の作成・実施
- アンケートの集計・分析
- 学校評価書（改善策・向上策を含む。）の作成

【自己評価の実施】

三学期

地域・学校協議会等の開催
- 学校評価書（自己評価）を検証し、学校関係者評価書の作成

【学校関係者評価の実施】

校長
- 学校評価書と地域・学校協議会等における学校評価書の検証内容の報告

【評価結果を委員会に報告】

校長
- 学校評価書等の保護者や地域住民への説明、意見や要望を把握

【評価結果の公表】

- 次年度の計画立案

学校評価のサイクル化

次年度へ

自己評価

自己評価の流れ

・RESEARCH の実施

児童・生徒の実態、保護者や地域住民との懇談等を通じて把握した学校への意見や要望の集約

⇩

・スクールプランの作成

前年度の学校評価の結果および改善策等を踏まえた具体的かつ明確な重点目標と取組の設定

⇩

・学校評価総合シートの作成

学校評価総合シートは、スクールプランに示された項目、重点目標および具体的取組に基づき、評価の観点、目標指数、判断基準、判定基準等の内容で作成

⇩

・スクールプラン・学校評価総合シートの検討

地域・学校協議会等にて、スクールプラン・学校評価総合シートを検討

⇩

・スクールプラン・学校評価総合シートの公表・説明

学校行事や学校だより、ホームページを通じて公表と説明

⇩

・アンケートの作成・実施

アンケートの作成に当たっては、学校評価総合シートの判断基準をそのまま活用し、教職員アンケート、外部アンケート（児童・生徒、保護者用）を作成・実施

⇩

・学校評価集計表の作成と分析

学校評価総合シートにアンケートの集計結果を記入して、学校評価集計表を作成し、集計結果を分析

・**学校評価書の作成**

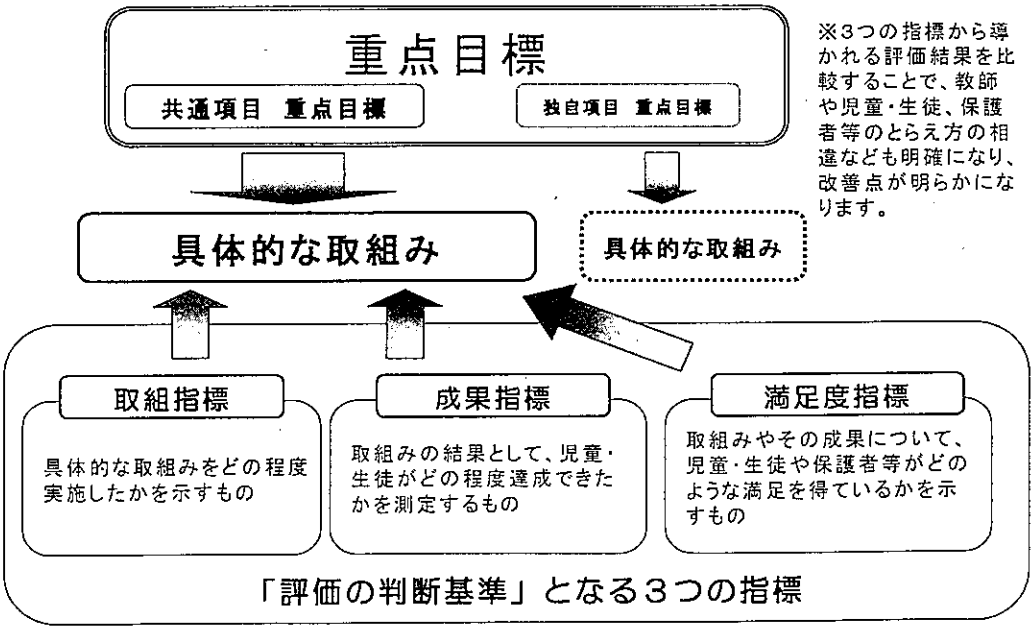
判定結果を総合的に分析し、成果と課題として、できるだけ簡潔かつ明瞭に記述。判定結果どうしや目標指数とのズレがある場合は、その要因を考察することで成果と課題が明らかになり、改善・向上策を検討する手がかりとなる。

学校評価書の作成にて、自己評価の実施となる。

３つの指標

特定の指標によって一面的に学校評価が評価されることのないよう、３つの指標から多面的にとえます。

多面的にとらえるための3つの指標



学校関係者評価

国のガイドラインでは、学校と直接関係のある者を評価者とする学校関係者評価委員会を組織するとなっていますが、本県では、「地域・学校協議会」がその役割を担います。ただし、県立学校においては、ＰＴＡ、同窓会、地域住民、元校長、他校の校長等で構成する組織を設置します。

自己評価結果を学校関係者の視点から確認することによって、自己評価の客観性・透明性を高めます。また、評価を通じて学校の現状と課題について共通理解を深め、家庭・地域との連携や学校運営の改善への協力を促進します。

学校関係者評価の流れ

・地域・学校協議会等にて（年度前半）
スクールプラン・学校評価総合シートの検討

↓

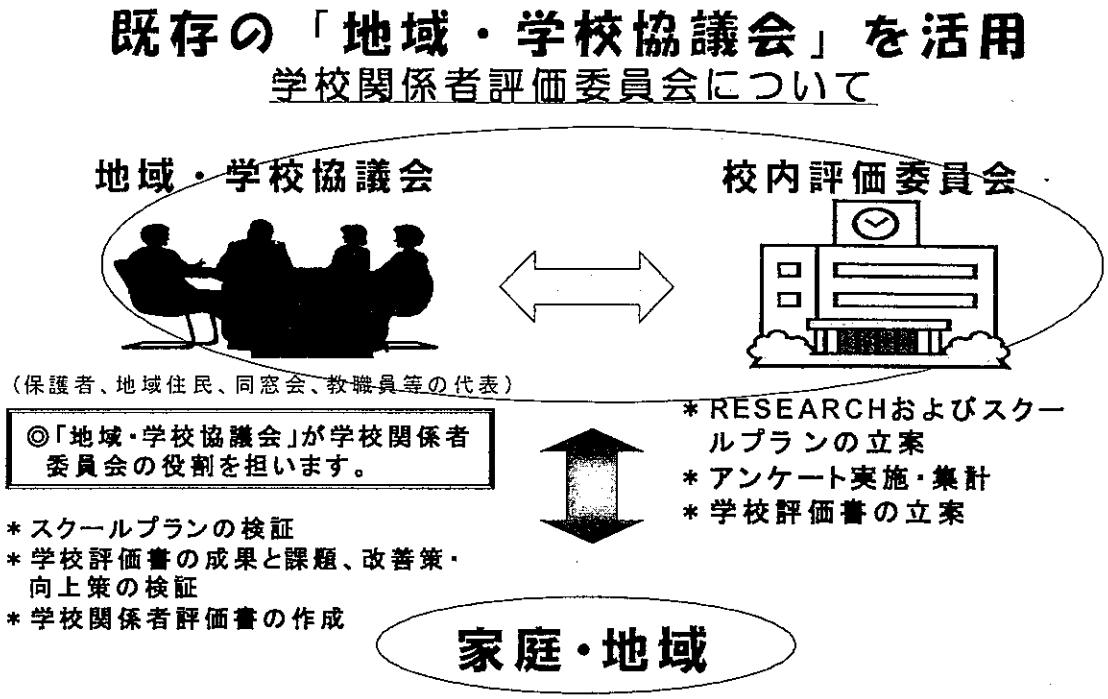
・地域・学校協議会等にて（年度後半）
学校評価書（改善策・向上策を含む。）の検証

↓

・学校関係者評価書の作成
地域・学校協議会等にて、学校評価書の結果と課題およびそれを踏まえた今後の改善策・向上策について検証し、意見等をまとめる。

学校関係者評価書の作成にて、学校関係者評価の実施となる。

学校関係者評価委員会について



外部アンケート

「学校評価ガイドライン〔改訂〕」より

従来、児童・生徒や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者等との懇談会を通じて、意見や要望を把握することを「外部評価」ととらえてきた例もみられました。

現在は、アンケート等については、学校の自己評価を行う上で、目標設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するためのものととらえます。これを外部アンケート等とします。

※外部アンケート等の実施で学校関係者評価に代えることは不適当です。

設置者に報告

各学校は、スクールプラン、学校評価書、学校関係者評価書等を設置者に提出します。

評価結果等の公表（学校力アピールの場）

スクールプランは７月ごろまでに、また学校評価書、学校関係者評価書等の評価結果は年度末までに、学校だより、ホームページなどで公表します。

スクールプランの公表は、保護者や地域住民等に、学校の１年間の取組を１年かけて見守っていただくためのものであります。

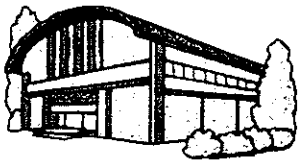
評価結果等の公表は、学校の取組内容、学校の良さや抱えている課題、また、今後の改善策等の努力を素直に示すことにより、保護者や地域住民等の理解や支援を得る絶好の機会となります。さらに、外に向かって自校の学校力をアピールする場でもあります。

公表を学校・家庭・地域を結ぶコミュニケーション・ツールとし、学校評価を理解や連携協力を求めていくためのツールとして活用します。

※ただし、学校関係者評価書は、各評価者の承諾の上、公表をします。

おわりに

学校評価は、それぞれの当事者の次のアクションが生まれてくるように心がけます。また、学校評価の結果、学校に元気とやる気・自信が沸き上がることが重要と考えます。



学校評価参考事例等

※　事例はあくまでも参考例であります。各学校においては、これまで進めてきた学校評価の取組をもとに、創意工夫を生かした学校評価システムづくりを確立してください。

・スクールプラン①、②、③

・学校評価書①、②、③

・学校評価総合シート（事例案）

・学校関係者評価書（案）

平成○○年度　□□□□小学校スクールプラン①

教育目標　自立心に富んだ　たくましい子の育成

校　訓：○○○○　　めざす子ども像：みんなと仲良く助け合う子＜明るい子＞
めあてを持って学習する子＜強 い 子＞
進んで体をきたえる子　　＜元気な子＞

学校運営の基本方針
子どもたちが何事にも一生懸命取り組む、心と体を鍛える学校づくり
～　地域とのかかわりの中で　～

重　点　目　標

「豊かな心」の育成
○道徳の授業を中心とした学校教育全般における道徳教育を充実させる。
○地域・家庭との連携を強化し規範意識の醸成を図る。

「確かな学力」の向上
○学習意欲を喚起する手だてを講じ、学びあいのある学習活動を展開する。
○言葉を大切にし、言語による表現力・読解力を高める

気力・体力と健康の増進
○体を動かす楽しさと意義を伝える。
○健康教育、感謝の心を育てる心の教育として、積極的に食育に取り組む。

地域とともに歩む学校
○コミュニティ・スクールの推進を通して、地域との連携を深める。

みんなが実行！挨拶・安全・温かい心
○毎月「3-あ-week」を設定し、あいさつ・あんぜん・あたたかい心の実践を推進する。
○職員と児童会であいさつ運動を実施する。
○ＪＲＣに加盟し、学年・学級ボランティアを積極的に実施するなど助けあいの精神を養う。
○福祉施設や幼稚園・保育園との交流を行い、思いやりの心を育成する。
○縦割グループでの清掃活動や町内でのクリーン作戦に参加し、社会の一員である自覚を持たせる。
○アンケートや児童との面談を定期的に行ったり、日常のつぶやきを見逃さないようにしたりして、いじめのない学校づくりに努める。

みんな大好き！読書に親しむ子
○個に応じたきめ細かな指導を行うために、4～6年生の算数の授業をＴＴで行う。
○3年生以上で週1時間「確かめの時間」を設け、補充・発展的な学習を行う。
○朝の読書タイムを通年で実施し、読書時間を保障する。
○親子読書・読み聞かせ・ブックトークなどの企画を実施し、読書活動を推進する。
○スキルタイム（業間）で視写に取り組み文体・文章・語彙に慣れる。
○「学習・生活チェックポイント」で積極的で規律ある学習態度の定着を図る。

みんなでめざせ！持久走個人記録向上
めざせ！昼の歯みがき全員実行
○「できた」「がんばれた」等の満足感を得られるような活動を工夫し、体を動かす楽しさと意義を伝える。
○週2回のパワフルタイム（業間）で持久走を行い、めあてを持って取り組ませる。
○定期的な健康チェックを実施し、望ましい生活習慣の育成を図る。
○学校保健委員会で家庭と地域との連携を深め、基本的な生活習慣の定着や健康増進を図る。
○いのちの学習の充実を図り、自他共に大切にする態度を養う。

○地域学校協議会の充実を図る。
○定期的に学校公開を実施する。
○広く保護者や地域からボランティアを募る。
（低学年支援・学校図書館・環境整備・情報機器・学習支援・見守り等）
○地域人材を発掘し、学習支援の促進を図る。

平成○○年度　□□□□中学校スクールプラン②

教　育　目　標

豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成

めざす生徒像

心身を鍛え、
たくましく実践する生徒

自ら学び、意欲的に
確かな力を身につける生徒

心豊かで
思いやりのある生徒

たくましい心と体

○基本的生活習慣の確立
○「食育」の推進
○教育相談活動の充実

確かな学力

○「学び方」を身につける指導
○基礎・基本の定着
○家庭学習の習慣化

豊かにかかわりあう心

○高め合う学級集団づくり
○小中の交流の促進
○豊かな体験活動の推進

手を取り合う学校と家庭・地域

○学校と家庭・地域の連携の強化
○安全・安心な通学路の確保
○開かれた学校づくり

具体的な取り組み

・生活点検改善運動を実施する。
・4つの看板（挨拶・歌声・清掃・集合）を定着させる。
・広報紙「△△△」を通して「食と健康」への関心を育てる。
・定期的に教育相談週間を設け、生徒の悩み等の早期の解決を図る。

・全教師が一授業一工夫を実践し、魅力あるわかる授業を実施する。
・授業や集会で発表の場を多く設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。
・ドリルコンテスト(英単語、漢字、計算)を実施し、基礎学力を定着させる。
・週末課題や毎日の課題を通して、家庭学習への主体的な態度を育てる。

・各種行事を通して、学級の団結力を高める。
・部活動を推進し、人間関係づくりを図る。
・小中連携による交流行事を実施し、異学年集団の中での育ちを図る。
・地域への清掃ボランティアを実施し、地域の一員としての自覚を育てる。

・学校便り、学年・学級便りを定期的に発行する。
・子育てのスローガンの浸透と徹底を図る。
・PTAと連携し、通学路立ち番を実施する。
・校区の小学校と連携して学校の教育活動を公開する。

平成○○年度　福井県立□□高等学校スクールプラン　③

校　　訓　○○○・○○○

教育方針　国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる知徳体の調和のとれた人材の育成

教育目標
1 主体的な学習態度を育て、確かな学力の向上と健全な教養の育成に努める。
2 生徒一人ひとりの進路実現に向け、丁寧できめ細やかな進路指導に努める。
3 規範意識を高める生徒指導の一層の充実に努める。
4 家庭、地域との連携を密にして、開かれた学校づくりに努める。
5 ……

重点目標

1 教育課程・学習指導・研修（教務部）
生徒の主体的な学習態度を育成し、学力のより一層の向上を図る。
《チャイムスクール授業が全校生徒の学習に占める割合》

具体的取組

a 授業公開週間の実施、教科内における学年別研修の充実など、教科担当者の授業力向上を図る。
目標：教員のわかりやすい授業への目標指数（十分に取り組んだ割合）○○%以上

b 家庭学習時間調査をもとに面談等を実施し、生徒の家庭学習の充実を図る。
目標：生徒の家庭学習への目標指数（十分に取り組んだ割合）○○%以上

2 生徒指導（生徒指導部）
生徒の規範意識の高揚を目指すとともに、特別活動の一層の活性化を図る。
《目標を達成した達成指数》
《問題行動の（年度）への

具体的取組

a 基本的生活習慣の確立を促し、あらゆる教育活動を通して、生徒の校則や社会的マナーを遵守する態度を育成する。
目標：生徒一人当たり、遅刻を学期に1回以下に抑える目標指数○○%以上

b 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動への積極的参加を促し、リーダーの育成及びボランティア精神の涵養に努める。
目標：部活動への参加の目標指数（積極的に取り組んだ割合）○○%以上

3 進路指導（進路指導部）
生徒の適切な進路目標の早期設定を図り、進路希望の実現に努める。
《大学現役合格率○○% 以上》

具体的取組

a 学年に応じた職業観の育成や進路選択のための行事、さらに学級担任による面接等を通して生徒の適切な進路目標の早期設定を図る。
目標：個人面談を年間3回以上実施する目標指数○○%以上

b 大学入試問題や模擬試験の分析により大学が高校生に求める学力と生徒の現状を把握して、教科指導の充実や生徒の進路実現を図る。
目標：教員の模試の事後指導への目標指数（全員に指導した割合）○○%以上

4 保健管理・教育相談（保健部）
心身ともに健康で豊かに生きようとする生徒の育成を図り、美化意識や奉仕的精神の育成に努める。

具体的取組

a 定期健康診断をもとに治療指導の徹底を図り、生徒自らが健康管理できるように啓発する。
目標：生徒の健康管理への目標指数○○%以上

b 清掃指導や監督を徹底し、習慣化を図る。
目標：清掃指導の目標指数○○%以上

c 生徒理解を深め、生徒一人ひとりに応じた教育相談体制を充実させる。
目標：生徒への対応の目標指数（積極的に取り組んだ割合）○○%以上

5 渉外・安全管理（庶務部）
保護者と学校との連携および保護者同士の連携を深め、生徒の健全な育成に努める。

具体的取組

a ＰＴＡ総会や学級懇談会等を通して、保護者と学校との連携を図り、学校と保護者の相互理解を深める。
目標：教員のＰＴＡ総会および保護者懇談会対応への目標指数（十分に取り組んだ割合）○○%以上

b 進路についての意見交換会での講演や懇談の内容を工夫し、保護者同士が話し合える機会を充実させる。
目標：保護者の目標指数（満足の割合）○○%以上

6 図書指導（図書部）
生徒の豊かな教養と情操の育成を目指し、図書館活動の充実を図る。

具体的取組

a 読書がもつ意味についての生徒の理解を促し、広報活動や行事等を通して、生徒の読書意欲の向上を図る。
目標：図書館の広報誌を毎月発行する目標指数○○%

b 学習指導等の時間における図書館の利用を通して、生徒の主体的な学習活動を支援する。
目標：図書館を授業やＬＨＲ等で利用する目標指数○○%以上

7 情報管理（情報教育部）
情報機器の適切な利用等を通じて、教職員や生徒の情報モラルや情報リテラシーの向上に努める。

具体的取組

a 教職員・生徒に対し、情報モラルや情報セキュリティーに関する適切なサポートや指導を行う。
目標：教員のセキュリティーへの適切な対応の目標指数（十分に取り組んだ割合）○○%以上

b 教職員・生徒が、積極的に情報機器を利用できるよう機器の充足や管理を適切に行う。
目標：情報機器の充足・管理への目標指数（十分に取り組んだ割合）○○%以上

8 理数科授業・SSH推進（理数科・SSH推進部）
生徒の科学への興味・関心を喚起し、科学技術系人材の育成に努める。

具体的取組

a 県内外の大学・研究機関・先端企業等との連携の充実
目標：大学・企業研修の実施への目標指数○○%以上

b 課題研究やその発表による科学技術・理数系への興味・関心の喚起
目標：課題研究への生徒の目標指数（有意義だと感じた割合）○○%以上

c 国際交流による、情報活用及び英語コミュニケーション能力の育成
目標：英語活用への目標指数（十分に取り組んだ割合）○○%以上

9 教育改革検討推進（改革検討委員会）
本校の教育活動全般において、当面する課題および中・長期的課題について検討する。

具体的取組

a 校務分掌、会議等の機能を点検し、業務の見直しを図り、多忙化解消に努める。
目標：校務分掌を横断する委員会で、様々な課題を効率的に解決し、各部の負担を軽減する

b 難関国大合格者数の増加を目的とする施策の企画・立案に努める。
目標：難関国大合格者数の対前年度増

平成○○年度　□□□□小学校　学校評価書①

項目	具体的取組	評価の観点	回答者	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策
確かな学力	コミュニケーション能力の向上を図るため、相互交流や学び合いを大切にした授業展開を工夫する。	(取組指標)児童のコミュニケーション能力の向上のため授業展開を工夫をしている。	教職員	○%	○%	児童の満足度に比べ、教員の判定結果が低い。コミュニケーション能力の向上のための取組みはしているものの、「わかりやすく」という点では、まだまだ課題が多く、成果につながっていないと思われる。児童は、意欲的にコミュニケーションを図ろうとしているものの、教員は、コミュニケーションの内容や質が充分でない児童が多いと感じている。	「わかりやすく話す」とはどういうことかというモデルを示す必要がある。例えば例文を示したり、「発表の型」に当てはめて発表したり、キーワードを用いて発表したりなどである。自分の考えをしっかり持った上で、スキル的な練習を繰り返し行うことで、コミュニケーション能力の向上が期待される。
		(成果指標)授業中に児童は自分の考えを根拠を示すなどしてわかりやすく伝え合っている。	教職員	○%	○%		
		(満足度指標)授業中に児童は積極的に自分の考えを伝え合っている。	児童	○%	○%		
	学習を定着させるため、授業内容と関連させた家庭学習を計画的に出す。	(取組指標)家庭学習の課題を授業との関連を考慮し、計画的に課している。	教職員	○%	○%	すべて○パーセントの高ポイントで、成果があがっている。しかし、わずかではあるが、家庭学習をきちんとやっていない児童がいる。理由として、「宿題をするのを忘れる」という面と、「宿題を持ってくるのを忘れる」という面が考えられる。どちらも、生活面での見直しが必要である。また、若干ではあるが宿題をしたくても分からなくてできないという児童もいる。きちんと宿題ができない児童には、その理由を見極め、個別に対応する配慮が必要である。	宿題が分からなくてできない児童には、興味を持てる課題や適切な内容での課題を出すなどの工夫をし、個別指導などで対応していく必要がある。また、生活面の理由で宿題がきちんとできない児童については、保護者との連携を図り、家庭学習がきちんとできるような環境づくりと習慣化を図る工夫が大切である。 また、今後は児童が自分で計画的に家庭学習ができるように、今年度効果があった「予習－授業－復習」とつながるような家庭学習の出し方や、児童の意欲を引き出すようなチェックリスト、自学ノートづくりなど具体的な工夫を教員間で共有できるようにする。
		(成果指標)児童は家庭学習の課題をきちんとやっている。	児童	○%	○%		
		(満足度指標)子どもは家庭学習をきちんとやっている。	保護者	○%	○%		
		(満足度指標)先生は、家庭学習を計画的に出している。	保護者	○%	○%		
体力づくりの推進	俊敏性や握力の向上をめざし、器具や遊具等を十分に活用して運動をする場を増やす。	(取組指標)児童が鉄棒や遊具等を活用した運動に意欲的に取り組むための指導を工夫している。	教職員	○%	○%	今年度も業間マラソンの後に、いろいろな器具を使った運動を取り入れた。特にラダー運動を取り入れたことで、児童の俊敏性が少なからず向上している。(体力テストでは、県平均には及ばないが、学校内の比較では、確実に向上している。)また、今年度から取り入れた鉄棒カードによって、鉄棒運動に取り組む時間や技の種類がかなり多くなった。技によっては、危険が伴うため、各学年に応じた細かな指導が必要である。 また、家庭での外遊びについては○%で多いとは言えない。	鉄棒カードは、技の内容や進級の方法などを見直し、児童が取組みやすいようにさらに改善していく。また、遊具等の遊び方をできるだけ紹介し、児童が目標をもって取り組むことのできる環境や業間運動の種類を増やしていく。 また、児童自らが体を動かす機会を増やせるように、運動する楽しさを味わわせるような指導の工夫をするとともに、家庭へも体を動かす外遊びなどのよさを知らせて、学校と家庭が連携していくようにする。
		(成果指標)週2回以上、業間運動を実施する。	教職員	○%	○%		
		(成果指標)鉄棒運動に取り組む児童が増えた。	教職員	○%	○%		
		(満足度指標)児童は鉄棒運動によくがんばった。	児童	○%	○%		
		(満足度指標)子どもは、元気に外遊びをしている。	保護者	○%	○%		

豊かな心	自分からみんなに元気な挨拶や返事ができるように継続的な指導をする。	(取組指標)元気な挨拶や返事の大切さを継続的に指導している。	教職員	○%	○%	教職員と児童の評価は目標指数を超えた。朝だけでなく、担任以外の先生と廊下ですれ違ったら挨拶する「こんにちは運動」や児童会のあいさつ運動による成果であり、来校者からもあいさつをほめられることが多くなった。しかし、保護者の評価は目標を下回り、また地区でもあいさつの声が小さい児童もいる。学校での成果をそれ以外の場面で発揮できなかったようである。	学校での取組みを継続すると共に、家庭や地域でもあいさつ指導に重点的に取り組んでもらえるよう、学校だよりなどに啓発の記事を載せる。また、見守り隊などを中心に登下校時などのあいさつ運動にも協力を依頼する。家庭でのあいさつ点検や、地域でもしっかりあいさつできる子を学校で表彰するなど、学校と家庭、地域が連携した取組みを行う。また、元気なあいさつを返せない児童を把握し教師から意識してあいさつをするなど、どの子も元気なあいさつができるように個別に支援を行う。
		(成果指標)児童は元気にあいさつや返事をしている。	教職員	○%	○%		
		(満足度指標)児童は元気に挨拶や返事をしている。	児童	○%	○%		
		(満足度指標)子どもは家庭や地域で挨拶や返事をしっかりしている。	保護者	○%	○%		
	児童の変化を見逃さないよう、児童一人ひとりの話を聞く機会を積極的に持つ。	(取組指標)ふれあいトーク週間などで児童一人ひとりに積極的に教育相談をしている。	教職員	○%	○%	年2回のふれあいトーク週間やその他の場面で教職員は一人ひとりの児童との相談の時間を大切にしてきているのだが、「先生にもっと話を聞いてほしい」「自分のことをわかってほしい」と思っている児童が○%あまりいることになる。その子たちを見逃さないよう、相談期間だけでなく日頃から気をつけていかなければならない。	ふれあいトーク週間の時間をひき続き確保する。 全教職員が、児童との関わりを大切にし、小さな気づきでも担任に伝える。 また、児童が「先生は自分のことをわかってくれる」と感じ、必要に応じて相談できるようにするには、ふれあいトーク週間などの教育相談期間だけでなく、日常の児童との会話や保護者との連絡を大切にしていく必要があると考えられる。児童の変化を見逃さないため、今後は、現職教育で教育相談などの研修の機会を持つことや、日常的な児童のとかかわりも重視して、具体的取組みをさらに工夫していく。
		(成果指標)児童が担任や養護教諭などに相談したいことをよく話している。	教職員	○%	○%		
		(満足度指標)先生は自分のことをよくわかってくれていると感じる。	児童	○%	○%		
		(満足度指標)子どもは先生が話をしっかりと聞いてくれると言っている。	保護者	○%	○%		
開かれた学校	地域の教育資源を十分に活用した授業づくりを進めるとともに、参観者が多くなるように学校開放の実施方法を工夫改善する。	(取組指標)地域の教育資源を活用した授業づくりを積極的にしている。	教職員	○%	○%	教育参観者が多く、学校開放の実施の仕方についても保護者の満足度は高い。 学校の地域学習の取組み方については、保護者の満足度は高いが、教職員は地域学習の授業づくりに対して、取組みが不十分と答えている。	地域にある教育資源を有効に活用した授業づくりができるよう、地域教材を扱ったり、学習支援ボランティアが活動したりする授業の校内研究会を実施する。 地域の教育資源を活用する取組みは、児童にとって有効であり、保護者も好意的に受けとめていると考えられるので、さらに新たな資源を開発したり、より学習効果をあげたりするために、保護者や地域に、活用できる資源がないかアンケートしたり、学習への協力をお願いしたりする。 また、今年度の学校開放は参観者の数に一定の成果や保護者の満足が得られたので、内容や時期に配慮しながら今後も続ける。
		(成果指標)教育参観授業の参観者が多い。	教職員	○%	○%		
		(満足度指標)保護者は学校開放の実施方法について満足している。	保護者	○%	○%		
		(満足度指標)保護者は学校の地域学習の取組み方について満足している。	保護者	○%	○%		

平成○○年度　□□□□中学校　学校評価書②

項目別評価表　＜学習指導＞

中期目標	学ぶ楽しさを味わう授業づくり
具体項目	学ぶ意欲　共に学ぶ楽しさ　わかる喜び

本年度目標（全教科）	アンケート結果 生徒アンケート	全学年	十分当てはまる	ほとんど当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない	平均（A～Cで記入）	1学期末（A～Cで記入）	2学期末（A～Cで記入）
「学習に興味・関心を持って取り組めた」と答える生徒が○%以上（学ぶ意欲）	興味・関心をもって取り組めた。	平均	○%	○%	○%	○%	□	□	□
		1学期末	○%	○%	○%	○%			
		2学期末	○%	○%	○%	○%			
「授業の中で、助け合いや教え合いができた」と答える生徒が○%以上（生徒同士の学び合い）	助け合い、教え合いができた。	平均	○%	○%	○%	○%	□	□	□
		1学期末	○%	○%	○%	○%			
		2学期末	○%	○%	○%	○%			
「学習したことが、身についた」と答える生徒が○%以上（分かる喜び）	学習したことが身についた。	平均	○%	○%	○%	○%	□	□	□
		1学期末	○%	○%	○%	○%			
		2学期末	○%	○%	○%	○%			

具体的取組			アンケート結果および考察 生徒アンケート	全学年	十分当てはまる	ほとんど当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない		中間判定（A～Cで記入）	年間判定（A～Cで記入）
全教科	生徒による授業評価を実施し、授業改善を図る。	話し方		1学期末	○%	○%	○%	○%	中間結果の反省から、特に板書については気をつけて取り組んだが、その結果、全項目について改善することができた。	□	□
				2学期末	○%	○%	○%	○%			
		板書		1学期末	○%	○%	○%	○%			
				2学期末	○%	○%	○%	○%			
		わかりやすさ		1学期末	○%	○%	○%	○%			
				2学期末	○%	○%	○%	○%			
各教科（例・英語）	DVDやCDなどの、視聴覚教材を、導入や発展など場面に応じて有効に利用し、興味・関心を高める。			前学期同様、音読練習・リスニング指導では、つまずきそうな部分を繰り返し行うなど、CDを効果的に利用することはできた。発展的な内容を含む視聴教材については、授業開始数分前から映像を流し、自由な雰囲気の中で視聴できるようにした。						□	□
	ペアやグループでの活動を、各小単元で最低1回取り入れ、協力し合う場面をもうける。			前学期同様、ペアでの音読練習や会話練習をほとんどの小単元で取り入れることができた。さらに、相手を多数にしたインタビュー活動を時々取り入れたり、ペアやグループで発表する機会を設けた。また、練習問題などをグループで取り組ませ、互いに確認したり、教え合う場面を取り入れるように努めた。						□	□
	宿題の中身に目を通して、家庭での学習状況や理解・定着の度合いを把握し、指導に役立てる。			時間割の都合上、どうしても授業前に宿題に目を通すことができないこともあった。しかし、前時の終わりで宿題を説明する際に、生徒が間違いやすい問題を予想し、事前に指導することで、正答率が上がり、宿題をチェックする時間を短縮することができた。						□	□

成果と課題（各教科からの一部抜粋）

＜国語＞新出漢字の学習では、指書きのとき、筆順チェックとともに画数も各自声に出して確認させるようにした。場が騒々しくなるかと心配したが、特にそのようなこともなく、個々のペースで学習を進めている雰囲気や積極性が増したように思われる。また、画数に着目させることで、間違えて書く生徒への指導もしやすくなった。しかし、個々が進めるワークに進度の差があったため、小テストがなかなかできなかった。

＜社会＞1学期に比べると、「生徒同士の学び合い」、「分かる喜び」の数値が低くなっている。「生徒同士の学び合い」については、3年生において学期末にグループでの話し合いや発表を多く取り入れた授業を実施できただけなので、このような結果になったと考えられる。また、「分かる喜び」については、学期の後半から2年生は地理分野、3年生は政治の領域に入ったこともあり、“なぜ”、“どうして”といった追求型の授業ができず、教師側から知識を伝達するだけの授業が多くなったためと考えられる。

＜体育＞本年度の3つの目標に対する達成状況は、「学習したことが身についた」の項目以外は、1学期と比較してわずかに低い評価となった。中間評価でBだった学級をAに引き上げることもできなかった。剣道の授業で団体戦を行い、試合を互いに見合ったり、応援し合ったりする活動を取り入れたり、マット運動の授業で、グループごとに活動・評価をさせたりといった工夫を行ったが、直接評価数値の向上にはつながらなかった。2学期授業の種目として、3年生では剣道、2年生ではマット運動という比較的生徒が苦手な種目があったことも低下の一要因と考えられる。

改善策（各教科からの一部抜粋）

＜美術＞後始末の時間を確保したり、ルールを徹底するなど、生徒が積極的に片付けに参加できるようにする。
＜数学＞問題を早く解けた生徒が、他の友達に教えることもあるが、さらに難易度の高い問題を用意するなどして、意欲や応用力を高めるようにする。
＜社会＞探究活動を取り入れることで、社会の変化に対応した課題を分析しながら学び、社会認識を深める授業を定期的に実践する。
＜国語＞板書計画をしっかり行い、分かりやすい板書に努める。

項目別評価表　＜生徒指導＞

中期目標	学校生活への適応　自己実現のための支援
具体項目	秩序ある望ましい学校生活　いじめの早期発見・早期対応

本年度目標	アンケート結果							中間判定（A～Cで記入）	年間判定（A～Cで記入）
	生徒・保護者アンケート		十分当てはまる	ほとんど当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない			
・「頭髪や服装など正しい身なりで学校生活を送っている」と答える生徒を○%以上とする。	生徒	自分は正しい身なりで生活した。	○%	○%	○%	○%	・「頭髪や服装など正しい身なりで学校生活を送っている」と答えている生徒の割合が○%に達し、ほぼ目標は達成できている。	□	□
	保護者	子どもは正しい身なりで学校生活を送っている。	○%	○%	○%	○%		□	□
・「学校生活が楽しい」と答える生徒を○%以上とする。	生徒	学校生活は楽しい。	○%	○%	○%	○%	・「学校生活が楽しい」と答える生徒の割合が○%に達し、ほぼ目標は達成できている。しかし、学校生活で普段活躍できていない生徒ほど、2や1と回答している。	□	□
	保護者	子どもは学校が楽しいと感じている。	○%	○%	○%	○%		□	□

具体的取組	結果および考察	中間判定	年間判定
・生活委員を中心に週1回身なり調べを行い、正しい身なりを意識付けさせる。	・毎週1回の割合で、生活委員が中心となって抜き打ち的にチェック活動を行ってきた。単に生活委員の調査活動に終わらず、各クラスでどの項目が一番守られていないかを考察することができ、正しい身なりを意識付けさせることができた。 ・学級担任○名中、○名の担任が「正しい身なりを意識付けさせることができた」と答えた。1学期よりは○名少なくなっているのは、チェック活動がマンネリ化してきたからだと思う。	□	□
・教育相談の充実を図り、教師と生徒のコミュニケーションを深める。	・計画的に教育相談を行うことができた。 ・1学期と同じように、生徒理解を深めることができ、また、生徒の不安や悩みを早期に発見し、解決するように努めた。 ・「あまりできなかった」と答えた担任が○名いるが、これは計画的にできなかっただけで、機会を見つけては教育相談を行っており、生徒とのコミュニケーションは深まっている。	□	□
・構成的グループエンカウンターを学年・学級の実情を考え、学期に2回以上取り入れる。	・構成的グループエンカウンターを学校祭後と秋季遠足の前後、11月の定期考査前などに計画し、2～3回のグループエンカウンターを行うことができた。 ・担当者がエンカウンターの参考資料を示し、学活の時間等を使って、学年や学級の実情に応じたエンカウンターを実施することができ「エンカウンターを実施できた」と答えた担任は○名にのぼり、中間評価にくらべ年間評価では大きく改善されている。	□	□

成果と課題

・前期の生活委員から、「後期も身なりチェックと持ち物チェックは、ぜひ続けて欲しい」という要望があり、後期委員会でも実施することにした。方法は、週1回の割合ですべての項目をチェックするのではなく、いくつかの項目を抜き打ち的に調べることにした。それでも、身なりが乱れている生徒は少なく、担任の指導によるところも大きい。
・教育相談では、1学期と同じように定期テスト前などに教育相談を行い、生徒理解を深めるとともに、生徒とのコミュニケーションも深めることができた。また、教師が見えないところで身だしなみが乱れているところを報告してくれることもあり、生活委員を通して、早期に全体指導することもできた。
・学校での生徒のみなりについては、保護者アンケートでも、よいという評価が○%あり、指導できていると考えられる。また、「学校が楽しい」の問いに当てはまらないとした児童、保護者の数は少ないもののゼロではないため、少数であっても十分配慮する必要があると考える。

改善策・向上策

・服装の乱れや持ち物の違反等は少なくなってきているが、生活目標を意識した学校生活は送れていないように思う。生活委員会の話し合いを通して、生活目標を意識した学校生活を送れるような手だてを考えたい。
・構成的グループエンカウンターは、2学期には十分実施できたが、学年の締めくくりである3学期にも、1～2回のエンカウンターを実施できるようにしたい。そのためには、実施時期を十分に吟味し、適切な内容のエンカウンターを紹介しなければならないと思う。
・今後も、教師と生徒とのコミュニケーションを深め、生徒理解に努めていかなければならないと考える。そのため、1・2年生は特に、計画的に教育相談を行っていかなければならないと思う。また、生徒理解を深めるためにも、これまで以上に保護者との連携の在り方についても工夫していきたい。

平成○○年度　福井県立□□□高等学校　学校評価書　③

項　目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 学習指導・地域連携（中高一貫教育） 教務部	①授業の予習・復習を徹底させるとともに、学習習慣の確立をはかる。	△ 学習習慣確立に関して、生徒の自己評価はまだ目標指数に達していない。授業担当者の学習習慣確立への指導は向上した。今後、更に日々の予習・復習の重要性を知らせる必要がある。	・年２回行われている学習調査のデータ分析をクラス毎にし、担任・教科担任の指導に反映する。また、質問項目の検討もすすめる。
	②中高一貫教育の研究に努め、適切に実践する。	○ 一期生の授業理解度は概ね良く、保護者の満足度も目標指数に達している。連携中学校との部活動や行事などの交流も適切であった。	
2 生徒指導 生徒指導部	①朝の登校指導等を行い、時間を守らせる。	○ 教員・生徒・保護者ともに目標指数に達している。不注意による遅刻過多の生徒に対しては、一層の指導が必要である。	・全体集会等を通じて、「時間厳守」の大切さを今後も指導していく。遅刻過多の生徒に対しては「反省カード」を利用し、保護者との連絡を密にする。そして指導の徹底を図る。
	②あいさつや正しい身なりができるようにする。	○ 「頭髪服装検査」や生徒会執行部による「あいさつ運動」等により、目標指数に達している。一部の意識の低い生徒に対しては、今後とも身なり指導の継続が必要である。	・常日頃の身なりやあいさつの重要性を集会等で喚起する。また、身なりが不十分である生徒への個別指導をより徹底する。
3 進路指導 進路指導部	①進路希望実現のために、小論文指導やハイレベル特別講座などを実施し、学力の向上を図る。	○ 「学力向上に関する取組について」　教員・生徒・保護者ともに目標指数に達している。	
	②早期に進路志望を明確にするための企画を実施し、進路情報の提供に努める。	△ 「早期の進路志望の明確化について」生徒と保護者との進路についての話し合いが不足している。	・保護者懇談会・研修会等を通して、進路情報の提供に一層努める。
4 保健管理 保健部	①種々の講話「保健だより」などを通じて、健康を自己管理する能力を育成する。	○ 多くの生徒は健康の自己管理が出来ている。担任は生徒の健康状態を把握し、保護者は子供が良好な健康状態を保つように配慮している。	
	②快適な学習環境を整えるため、日々の清掃活動の活発化を図る。	○ ほとんどの生徒が真面目に清掃に取り組んでいる。教員の清掃指導も十分に行われ、保護者の清掃状況の評価も高い。	
5 図書指導 図書部	①図書・資料の整備・充実に努める。	△ 図書館を利用する生徒が減少している。読書用の本を自費購入する生徒や、時間不足で来館できない生徒が多い。図書館の幅広い活用法を知らせる必要がある。	・広報活動に加え、授業での利用など幅広い分野で、図書の活用をすすめていく。図書の充実にも一層努力する。

	②読書指導と図書館利用のマナーの向上に努める。	○ 生徒は真面目に朝読書に取り組んでおり、教員の指導も十分に行われている。朝読書に対する保護者の評価も高い。	
6資格取得指導 商業総括部	①全商関係の資格取得のため、土曜講座、長期休業中の補習の充実を図る。	○ 教員・生徒・保護者ともに目標指数に達している。資格取得のための取り組みについては適切であった。	
7 開かれた学校づくり 渉外・防災部	①ＰＴＡ活動（総会・夏期研修会・秋期研修会）をより充実させ、活性化する。	○ ＰＴＡ活動について、担任による保護者への働きかけも、生徒による案内の連絡も十分に行われている。また、活動内容について、保護者は十分満足している。	
	②保護者に学校の教育活動やPTA活動を積極的に広報する。	○ 「ＰＴＡだより」を保護者はしっかり読んでおり、またそれが教育活動やＰＴＡ活動の情報を得る上で大いに役立っていると感じている。	
8 多忙化防止 学校全体	①各種会議・委員会の効率的な運営に努める。	△ 回覧・掲示や職員朝礼の活用は、目標指数に達したが、それが各種会議の効率的な運営には反映されなかった。	・各種会議・委員会の効率的な運営に関しては、回覧・掲示・職員朝礼の活用ではなく、より効率的な方策を検討する。
	②事務的作業の軽減・効率化を図る。	△ 校内ネットワークによる電子共有化は大いに活用されたが、文書作成の軽減・効率化への評価は目標指数を若干下回った。	・電子共有化する文書やデータの内容をよりわかりやすいものにする。また、関係機関と協力し、内部文書、外部文書の精選に努める。

［備考］「成果と課題」欄について、アンケート集計により、目標指数を達成した取組に関しては”○”印、達成しなかった取組に関しては”△”印としている。

学校評価総合シート（事例案）

学校経営や教育活動を推進していくための枠組み
（校務分掌等を参考）
【例】 県立学校は、教育課程・学習指導・研修、生徒指導、進路指導の3項目を共通評価項目とする。独自項目を1項目以上付ける。

1つの重点目標につき、具体的な取組みを絞って、1～2点設定する。

評価の観点を設定するときには、3つの指標から多面的にとらえられるように工夫する。
具体的な表現で、簡潔に分かりやすく表現すること。
評価の観点は、原則として、3つの指標（取組指標・成果指標・満足度指標）を入れ、3つ以上の指標をあげる。

目標指数は、回答の集計結果において、評価の観点ごとの取組や達成度の目標割合である。

判定基準は、回答の集計結果から、評価の観点ごとに取組や達成度を判定するめやすである。
割合は、目標指数と同じである。
基準に達しない場合の改善策等の指針を記入する。
判定基準は、各学校の現状や規模等を考慮して設定する。

アンケート等の回答者

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
1 教育課程 学習指導 研修	学習内容の定着を図るために家庭学習・自学自習の習慣化を図る。	家庭学習の時間が増えるよう、課題等について工夫する。	課題ノート・プリントの提出状況と内容点検を実施する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、課題ノート点検やプリント点検を Ａ ほぼ毎回実施した。 Ｂ ２回に１回ほど実施した。 Ｃ ３回に１回ほど実施した。 Ｄ 半期に１回実施する程度であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			授業の進度にあった適切な内容及び量の課題を計画的に提供する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、計画的に家庭学習のための課題を Ａ 計画通りに課題を提供できた。 Ｂ おおむね計画通りに課題を提供できた。 Ｃ あまり計画通りに課題を提供できなかった。 Ｄ まったく課題を提供できなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組方法等を再検討する。	教職員
			課題・宿題を期日までに提出する。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、課題・宿題を期日までに Ａ 80％以上提出していた。 Ｂ 60％以上提出していた。 Ｃ 40％以上提出していた。 Ｄ 40％以下であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、取組体制を再検討する。	生徒
			子供は、家庭学習に取り組んでいる。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａの合計が７０％以上	子供は、家庭学習を Ａ 毎日、やっていた。 Ｂ ２日に1回程度やっていた。 Ｃ 週に１日程度やっていた。 Ｄ ほとんどやっていなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７０％未満の場合は、家庭との連携強化につながる方策を検討する。	保護者

文科省の「学校評価ガイドライン」項目例を参考にしながら、項目の合体や独自項目を作成する。

3つの指標で多面的にとらえる。
○取組指標
教育活動において、どの程度の取組かを示すもの。
○成果指標
実践の結果として目標がどの程度達成されたかを測定するもの。
○満足度指標
実践の結果や成果に対して児童・生徒や保護者がどの程度満足しているかを示すもの。

取組指標は教師サイド、成果指標は児童生徒・教師サイド、満足度指標は児童生徒・保護者サイドを原則とする。

判断基準は、取組・成果・満足度の程度がA～Dのいずれの段階であるかを判断する基準となるものである。
数値化することで信頼性が高まる。
数値化できないものも、できるだけ具体的で明確な規準にしておくと信頼性が高まる。

盲・聾・養護学校は、例外として、生徒アンケートがない場合がある。

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
2 生徒指導	基本的な生活習慣とマナーの向上を図る。	全教職員が、分担して登校指導を実施し、きちんとした身なり・挨拶等の向上を目指す。また、遅刻者の減少を目指し、クラス別集計の公表や遅刻者の反省文を実施する。	身なりの注意指導や挨拶の指導に取り組む。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、身なりの注意指導や挨拶の指導に Ａ 見逃すことなく、積極的に行った。 Ｂ だいたい行った。 Ｃ 少ししか行わなかった。 Ｄ まったく行わなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員
			１学年１日の平均遅刻者数を、３名以下を目指す。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私の担当学年１日の平均遅刻者が Ａ ０～３名であった。 Ｂ ４～８名であった。 Ｃ ８～１１名であった。 Ｄ １１名以上であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員
			私の遅刻回数を学期に１回以下を目指す。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、遅刻の回数を Ａ 学期に１回以下であった。 Ｂ 学期に２～３回であった。 Ｃ 学期に４～５回であった。 Ｄ 学期に６回以上であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、取組体制・指導法等を検討する。	生徒
			子供は、正しい身なりで、挨拶もしっかりできている。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａの合計が７０％以上	私の子供の身なりや挨拶は、 Ａ 正しい身なりで、挨拶もしっかりできた。 Ｂ 正しい身なりであるが、挨拶は不十分であった。 Ｃ 挨拶はしっかりできるが、身なりは不十分であった。 Ｄ 身なりも挨拶も不十分であった。	回答者のＡと判断した割合が７０％未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
3 進路指導	進路意識の高揚と進路実現の向上を図る。	一人一人を大切に早期に進路目標を設定させる。	生徒一人一人に、的確な進路情報を伝え、面談を重ね、進路について考えを深めさせる。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、生徒一人当たりの面談回数を、 Ａ 学期に２回以上行った。 Ｂ 学期に１回行った。 Ｃ １年間に２回行った。 Ｄ １年間に１回行った。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員
			生徒に、明確な目標を持たせることをできた。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、担任、副担のクラスの生徒に明確な進路目標を持たせることができたか。 Ａ ９０％以上の生徒に持たせることができた。 Ｂ ７０％以上の生徒に持たせることができた。 Ｃ ５０％以上の生徒に持たせることができた。 Ｄ ５０％以下であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員
			私は、明確な進路目標を持つことができた。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、進路目標をもつことが、 Ａ 明確な進路目標を持つことができた。 Ｂ 明確ではないが、進路目標を持つことができた。 Ｃ まだ、進路目標が定まっていない。 Ｄ まったく考えていない。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、取組体制・指導法等を検討する。	生徒
			子供と進路の話し合いをし、本人は明確な進路目標を持っている。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７０％以上	私は、子供の進路目標について Ａ 話し合いをし、明確な進路目標を知っている。 Ｂ 話し合いをしている。明確ではないが、進路目標を知っている。 Ｃ 話し合いをしているが、進路目標は定まっていない。 Ｄ 話題にもならず、考えていない。	回答者のＡと判断した割合が７０％未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
4 保健管理	校内環境美化を促進し、生徒全員に美化意識を持たせる。	清掃の指導・監督を徹底し、「清掃タイム」の全校的取組体制を充実させる。	清掃の指導・監督を徹底する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、清掃の指導・監督を Ａ 毎回、欠かすことなく指導・監督を行った。 Ｂ ２回に１回程度、指導・監督をした。 Ｃ 週１回程度、指導・監督をした。 Ｄ ほとんど指導・監督をしなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			清掃を手際よく、効率的に行う。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、清掃を Ａ 与えられたものや自ら見つけた仕事を進んで手際よく、行った。 Ｂ 与えられた仕事のみを、手際よくやった。 Ｃ やる気がなく、監督の先生の目が届かないとき、手抜きをした。 Ｄ さぼることが多々あった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	生徒
			私は、校内環境美化に心がけている。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、校内にて、ゴミが落ちているのを見つけた場合、 Ａ ゴミを見つけしだい、必ずゴミ箱に捨てる。 Ｂ ゴミを見つけしだい、だいたいゴミ箱に捨てる。 Ｃ ゴミを見つけても、ゴミ箱に捨てることは少ない。 Ｄ ゴミが落ちていても、気にならない。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
			総会、保護者会、学校祭等の学校来校時の環境美化が行き届いている。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、〇〇学校の環境美化が、 Ａ 校舎内外とも、隅々まで行き届いていた。 Ｂ ２，３の気になる点もあるが、行き届いていた。 Ｃ 美化活動がやや物足りなかった。 Ｄ 今までと変わらなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
5 安全管理 施設設備	保護者に本校の教育活動を理解してもらうため、広報活動の活性化を図る。	保護者に学校の取組を十分理解してもらい、一体となって取り組むため、総会を充実させ、参加者を増加させる。また、機関誌の工夫をする。	ＰＴＡ総会等の学年担当時間の内容を工夫する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、正・副担任の学年担当時間の内容を、 Ａ 内容の工夫をし、大きく変更した。 Ｂ 内容の工夫をし、変更点は３カ所以上であった。 Ｃ 昨年と比較して、１・２カ所の変更点であった。 Ｄ 昨年と同じであった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			担任、副担任クラスのＰＴＡ総会参加者を増加させる。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私の担任、副担任クラスのＰＴＡ総会参加率を、 Ａ ６０％以上であった。 Ｂ ５０％～６０％であった。 Ｃ ３０％～５０％であった。 Ｄ ３０％未満であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員
			学校からの連絡等の配布物を、保護者にしっかりと渡し伝えている。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、連絡配布物を保護者に、 Ａ すべての配布物を渡し、内容等の話し合いをした。 Ｂ 配布物はだいたい渡し、対話は若干あった。 Ｃ 重要と思われるもののみ渡した。 Ｄ 渡していなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
			学校の教育活動や情報がよくわかり、子供との対話がある。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、ＰＴＡ総会に出席することや配布物から、 Ａ 学校からの連絡はすべて知っており、子供との学校の話題が増え、学校が身近なものに感じられた。 Ｂ 学校からの連絡もおおよそ知っており、子供と学校の話をすることが少しあった。 Ｃ 配布物のみの情報であった。 Ｄ 今までと変わらなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
6 図書指導	読書の意義・必要性を理解させ、読書習慣の定着を図る。	朝の〇〇分間読書を実施し、生徒一人一人に読書刺激を与え、読書習慣の定着を図る。また、貸出冊数を増やす。	読書活動の時間の充実を図っている。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、朝の〇〇分間読書を実施し Ａ 毎回、欠かすことなく指導・監督を行った。 Ｂ ２回に１回程度、指導・監督をした。 Ｃ ３回に１回程度、指導・監督をした。 Ｄ ほとんど指導・監督をしなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			朝の〇〇分間での平均読書ページ量。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	あなたは、朝の読書で１日何ページ程度読んだか。 Ａ 〇〇ページ以上。 Ｂ 〇〇ページ以上。 Ｃ 〇ページ以上。 Ｄ 〇ページ以上。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	生徒
			月生徒１人あたりの図書貸出冊数量。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	あなたは、月あたり、本を何冊借りたか。 Ａ 〇冊以上になった。 Ｂ 〇冊以上になった。 Ｃ 〇冊以上になった。 Ｄ 〇冊に達しなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
			子供は、読書に親しんでいる。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	あなたの家庭では、 Ａ 親子で読書の対話があり、読書を楽しむことができた。 Ｂ 子供の本を読む姿がよく見られるようになった。 Ｃ 以前より若干ではあるが、子供の読書量が増えた。 Ｄ 今までと変わらなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
特別支援教育	個別の教育支援計画の充実及び関連機関との連携の強化を図る。	個別の教育支援計画を作成する。 地域の関連機関と情報交換できる会に参加し、地域や保護者のニーズを把握する。また、地域の保護者同志が情報を交換したり、就学前の子供が参加できる活動の場を設ける。	記述内容の視点がはっきりして、ゆとりを持って個別の教育支援計画を作成する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、個別の教育支援計画作成を、 Ａ ゆとりを持って、スムーズに作成できた。 Ｂ スムーズに、だいたいできた。 Ｃ どうにか、できた。 Ｄ あまりできなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			地域や保護者のニーズを把握できるように関連期間と連携した会に参加する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私の関連機関と連携した会に参加した回数は、 Ａ 年５回以上。 Ｂ 年３回以上。 Ｃ 年１回以上。 Ｄ １回も参加しなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員
			地域の保護者同士が情報交換できる場を設け、保護者のニーズを把握し、早期教育の充実を図る。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、情報交換できる会を、 Ａ 年３回以上実施し、参加した。 Ｂ 年２回実施し、参加した Ｃ 年１回実施し、参加した。 Ｄ １回も実施しなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	教職員
			情報交換会等が、適宜開催されている。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、情報交換会が、 Ａ 適宜開催されて、大変有意義であった。 Ｂ 適宜開催され、参加した。 Ｃ 都合で、参加できなかった。 Ｄ 開催されず、残念であった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
教育課程 学習指導 研修	分かる授業を展開し、生徒の学習意欲を高める。	公開授業及び教科研究会を実施し、指導法の充実や教材等を研究する。	各教科で公開授業や教科研究会を実施する。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私の担当教科の公開授業及び研究会の実施が、 Ａ　８回以上。 Ｂ　６回以上。 Ｃ　４回以上。 Ｄ　３回以下。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			分かりやすい授業を目指して工夫している。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	分かりやすい授業を目指して工夫している教師が、 Ａ　ほとんどであった。 Ｂ　半数ほどいた。 Ｃ　少しいた。 Ｄ　あまりいなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	生徒
			授業内容を理解している。 （成果指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、全科目の授業の理解について、 Ａ　授業内容は理解できた。 Ｂ　授業内容はおおむね理解できた。 Ｃ　授業内容はあまり理解できなかった。 Ｄ　授業内容は理解できなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
			本校の学力定着のための指導法充実等の取組に満足している。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、本校の指導法充実の取組に Ａ　十分に満足している。 Ｂ　おおむね満足している。 Ｃ　やや不十分である。 Ｄ　不十分である。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
生徒指導	部活動の活性化を図る。	部への加入率を上げる。また、決められた活動時間を守り、短時間で効果のある集中した活動を行い、練習内容を工夫する。	短時間で効果のある活動のために、指導監督を行う。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私は、部活動の実施日には、 Ａ　ほとんど毎日、指導監督を行った。 Ｂ　２日に１回、指導監督を行った。 Ｃ　５日に１回、指導監督を行った。 Ｄ　あまりいっていない。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			運動部・文化部に加入し、活動時間を守る。 （成果指標） 【目標指数】 Ａの合計が７５％以上	私は、部に加入し、活動時間を、 Ａ　運動部・文化部に加入し、部活の終了時刻を守った。 Ｂ　運動部に加入し、終了時刻を過ぎることが多々あった。 Ｃ　文化部に加入し、終了時刻を過ぎることが多々あった。 Ｄ　部に加入していない。	回答者のＡと判断した割合が７５％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	生徒
			加入部の練習・活動の内容に満足している。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、練習・活動内容について Ａ　十分に満足している。 Ｂ　おおむね満足している。 Ｃ　やや不十分である。 Ｄ　不十分である。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
			子供の加入部の練習・活動内容と帰宅時間（部活終了時刻）に満足している。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	子供の加入部の練習・活動内容と帰宅時間について Ａ　内容と帰宅時間とも、十分に満足している。 Ｂ　おおむね満足している。 Ｃ　やや不十分である。 Ｄ　不十分である。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

項目	（具体的な）重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者
進路指導	キャリア教育を徹底し、生徒の進路実現を図る。	早い段階で、就職に向けての意識の向上を図り、自分の進路にあった科目を選択させる。	就職について考えるための情報提供に努めている。 （取組指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	私の担任・副担のクラスに、 Ａ 適した情報が充分提供された。 Ｂ 情報提供が不充分な部分があった。 Ｃ 情報提供があまりなかった。 Ｄ 情報提供がなかった。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、実施方法等を再検討する。	教職員
			私は、明確な進路目標を持つことができた。 （成果指標） 【目標指数】 Ａの合計が７５％以上	私は、進路目標をもつことが、 Ａ 明確な進路目標を持つことができた。 Ｂ 明確ではないが、進路目標を持つことができた。 Ｃ まだ、進路目標が定まっていない。 Ｄ まったく考えていない。	回答者のＡと判断した割合が７５％未満の場合は、取組体制等を再検討する。	生徒
			自分の進路にあった選択科目になっている。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が８０％以上	私は、選択科目について Ａ 自分の進路にあっていて満足している。 Ｂ 自分の進路にあっていないが満足している。 Ｃ あまり満足していない。 Ｄ 満足していない。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が８０％未満の場合は、改善策を検討する。	生徒
			子供は、明確な進路目標を持っている。 （満足度指標） 【目標指数】 Ａ＋Ｂの合計が７５％以上	子供の進路目標について Ａ 話し合いをし、明確な進路目標を知っている。 Ｂ 話し合いをしている。明確ではないが、進路目標を知っている。 Ｃ 話し合いをしているが、進路目標は定まっていない。 Ｄ 話題にもならず、考えていない。	回答者のＡまたはＢと判断した割合が７５％未満の場合は、改善策を検討する。	保護者

平成○○年度 ○○○○学校 学校関係者評価書（案）

（問）・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切かどうか。 ・その他
（評価者） ※「地域・学校協議会」の方 県立学校においては、PTA、同窓会、地域住民、元校長、他校の校長等で構成する組織の方 上記の問に対する意見等を聞いた方を記入する。
（意見欄） ※学校評価書の項目ごと、または全体に対する意見等を箇条書きに記入する。 ※項目は、県立学校においては、校務分掌名ではなく、教育課程・学習指導・研修、生徒指導、‥‥、図書指導、‥‥、全体（総括）で記入する。 （県立学校の事例） ○教育課程・学習指導・研修 ・ ・ ・ ・
○生徒指導 ・ ・ ・ ・
○進路指導 ・ ・ ・ ・
○全体（総括） ・ ・ ・ ・
○学校関係者評価を踏まえた今後について ※学校として、次年度にどう対応していくかを記入する。 ※学校評価のサイクル化に向けて、記入する。